

< もくじ >	
1. 巻頭言：新たな時代への挑戦	1
2. 2019年度定時総会・第18回大会開催のお知らせ	2
3. 定時総会の出欠・委任の回答について	3
4. 研究会からのお知らせ	3
5. 各研究会の概要報告	3~6
6. JAAS ロゴマーク、会員番号入り特製名刺作成のお願い	6

1. 巻頭言：新たな時代への挑戦

平成という時代に終わりをつけ、令和という元号による新たな時代の始まりへの議論を促す動きが活発化しているようです。しかしながら、この時点でわれわれがなすべきは新元号に期待を込めた輝かしい意味を問うことよりも、むしろ改元の背後で進行する現実を見据えることではないでしょうか。超高齢化、人口減少さらにはAI技術の急激な発達、またそれと並行して、大規模自然災害への危機、津波被害からの復興の遅れや原発事故災害の影響、貧困と格差による富裕層と貧困層間、低所得層と生活保護世帯層間、ジェンダー間、若年層と高齢者層間、都市と過疎地域間の分断の現実、そしてそれらのわれわれ自身の生活への影響があります。



このような現実を前にして、現時点でのシニア社会学会の役割は、現実に行っている事態に冷静な目を向けることであるとともに、新しい時代に向けて、ささやかではあれ何らかの挑戦をしていくことではないでしょうか。そのための当学会の当面の課題を考えてみましょう。

第1の課題は、「シニア社会」の意味を再考することです。この言葉は、どちらかといえば「高齢者世代の社会」という意味合いが少なからず強調される傾向がありましたが、本来の趣旨は「老若男女共同参画社会」です。現在の時代の大きな動きを背景にすれば、「高齢者世代」を中心に置く見方には限界が来ています。むしろ本来の趣旨に立ち戻り、「シニア社会」を「社会のシニア化」、つまり世代やジェンダーを超えた人びとの生き方を、それぞれの立場で主張しつつ相互に尊重し合い共創していけるような「エイジフリー社会」の実現という意味合いでとらえ直すことが必要です。

第2に、自己責任が強調される社会での貧困と格差の広がり、また、急激な経済変動や予測困難かつ複雑なメカニズムで起こる災害や気候変動などによる、かけがいのない家族の喪失、失業、孤立化、介護問題、育児問題、認知症などは、あらゆる世代に課せられる深刻な問題です。にもかかわらず、これらの問題は置かれた状況によって異なる様相で現れることから、世代やジェンダー間、さらには同世代内での分断をもたらします。当学会の課題は、高齢者層の立場に立つことで対立や分断を深めることにならないように、分断の原因を探り、それぞれの状況にある人の抱える問題の背景の共通性を認識することで、相互に支え合う関係をつくり出すことではないでしょうか。

第3に、このような時代の変化に適応していく新たな人材の育成は、高齢者世代がモデルとなるのではなく、世代やジェンダーを超えた相互の支え合いを通じて進めていく道を探ることが重要です。つまり、新たな人材育成を、世代やジェンダーを超えた社会の共通課題とすることです。高齢

者世代も新たな変化に適応していくための訓練が必要であり、若年世代から「学ぶ」努力が求められます。それが高齢者世代のためにもなる社会であるに違いありません。

以上を踏まえれば、当学会はシニア世代のための学会であることから脱却するために、あらゆる世代の参加者の力を借りなければなりません。そのために2019年からの3か年計画のテーマを「新たな時代への挑戦～エイジフリー社会の課題と展望」として、これから3年間の活動企画を立てていきたいと思っております。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

一般社団法人シニア社会学会
事務局長 長田攻一

2. 2019年度定時総会・第18回大会開催のお知らせ

すでに会員の皆様に総会資料と大会プログラムをお送りいたしました。2019年度の定時総会と第18回大会は、以下の日程で開催されます。会員はもちろん、大会には非会員を含めてぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。詳細についてはプログラムをご参照ください。

(1) 日程・会場

1) 開催日時：2019年6月15日(土)

2) 開催場所：駒澤大学(駒沢キャンパス 種月館(3号館)211教室)

(東京都世田谷区駒沢一丁目23番1号、東急田園都市線駒沢大学駅下車徒歩8分)

「駒沢大学駅」は田園都市線で渋谷から3つ目(三軒茶屋方面)ですが、急行は停まりません。

(2) 第一部：2019年度定時総会(会員のみ)(10:00~10:50)

(3) 第二部：第18回大会(11:00~16:40)

1) 第Ⅰ部：ドキュメンタリー映画上映「ひとと原発」 板倉真琴監督挨拶

※ 当学会で集めた被災者支援募金の一部を、昨年、板倉監督に寄付しました。

2) 第Ⅱ部：大会テーマ「新しい時代における地域コミュニティのSDGs」

新たな時代への挑戦～エイジフリー社会の課題と展望Ⅰ

※ 新3か年計画：「新たな時代への挑戦～エイジフリー社会の課題と展望」の初年度です。

※ 超高齢化、人口減少、AIの技術の飛躍的発展など、大きな変化の時代において、もっとも身近な生活領域である地域コミュニティに視点を据え、SDGsを手掛かりにしながら、コミュニティが直面する課題解決のために、ともに学び、「新たな社会の創り手」を育て、支え合う豊かな関係を築く道筋について考える場にしたいと思います。

※ SDGsとは、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、国際社会共通の目標です。

◆ 基調講演：「まちづくりにおける共通価値の創造とSDGs」

笹谷秀光(社会情報大学院大学客員教授、伊藤園元取締役、日本経営倫理学会理事)

◆ シンポジウム：「新しい時代におけるコミュニティのSDGs」

司会：長田攻一(当学会理事)

★庄司信明(元朝日新聞スポーツ記者、桜美林大学非常勤講師、当学会会員)

★中村昌子(元日本航空客室乗務員、市川市教育委員会外国語指導員、市川市環境保全課認可地域猫活動団体「妙典 Cat Fellow Net」、当学会会員)

★小平陽一(さやま市民大学講師、蚊トンボファーム代表、当学会会員)

コメンテーター：笹谷秀光

(4) 第三部：懇親交流会(17:00~18:30) 駒澤大学 種月館学生食堂内個室

※ 詳細については、総会招集案内に添付の「大会プログラム」をご参照ください。

3. 定時総会の出欠・委任の回答について

2019年度定時総会・第18回大会の招集状は5月10日にメールにて（郵送は5月8日にクロネコDM便にて）会員の皆様にお送りしましたので、ご確認下さい。

回答フォームあるいは同封のハガキにて総会出欠（欠席の場合は委任状になります）・大会及び懇親交流会の出欠を5月31日必着で回答ください。ハガキの場合は、62円切手を貼付の上投函してください。

4. 研究会からのお知らせ

(1) 第119回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年5月22日（水） 18:00～20:00
 - 2) 報告者：谷口 優（国立環境研究所環境リスク・健康センター 主任研究員、
東京都健康長寿医療センター 協力研究員）
 - 3) テーマ：「認知症予防のABC～方法からターゲットまで」
 - 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階
- ※ ご質問がございましたら、阿部（旧姓佐藤）まで 090-4436-6853

(2) 第66回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年5月23日（木） 15:00～18:00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
 - 3) テーマ：「横丁のご隠居への道 — 私の老いのパスポートを考える —」
 - 4) 報告者：佐藤 敬
 - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願いいたします。

(3) 第56回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年5月28日（火） 18:00～20:00
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
 - 3) 報告者：浦野 正樹（早稲田大学文学学術院／地域社会と危機管理研究所代表）
 - 4) テーマ：「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」をめぐって～研究趣旨とその背景～
 - 5) 参加費：当分の間頂戴しません。
- ※ お問い合わせは、福原（fukuhara@jaas.jp）までお願いいたします。

(4) 第12回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年5月29日（水） 18:00～21:00
 - 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9F ラウンジ
 - 3) テーマ：「令和の時代、身近な地域コミュニティのSDGs」
 - 4) 参加費：500円
- ※ お問い合わせは中村（nakamura@jaas.jp）までお願いいたします。

5. 各研究会の概要報告

(1) 第118回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年4月24日（水） 18:00～20:00
- 2) 報告者：川村匡由（武蔵野大学名誉教授・シニア社会学会理事）
- 3) テーマ：「老活・終活のウソ、ホント」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

昨今の終活ブームのなか、本講座は5月30日（木）、大学教育出版より刊行する拙著「老活・終活のウソ、ホント70」を意識したものである。

今、なぜ、終活のほか、老活も重要なテーマか。小生の過去約30年にわたる研究、および個人的な老後の生活設計を振り返り、終活の前提としての老活も合わせて必要と思ったからである。具体的には、定年退職後、公的年金と退職金を中心とした老後の生活設計に加え、現役時代から健康増進とともに個人年金や企業年金、財テク、副業も視野に入れ、年金、医療、介護、終末などに備える必要がある。そのためには政府や自治体、民間金融機関、寺院、葬祭業者などの情報をうのみにせず、そのウソを見抜き、ホントの実像を直視し、早め早めの対策を講ずる必要がある。

そこで、拙著の70のうち、「人生100年時代」はウソで、ホントは70～90年で、その裏には政府の公的年金の繰り上げ支給を70歳超に延長し、支給額を抑制したい意図がある。また、「医療費の自己負担は1～3割」というが、これもウソで、ホントは「高額療養費制度」で上限があり、これを超えた分は還付される。このほか、「老後の最低生活費は月額25万円」はウソで、ホントは同15万円ですべて十分である。さらに、「葬儀費用は平均200万円」もウソで、直葬であれば15万～22万円で済むなど、計10について披露、消費者として情報共有し、シニア社会学会などを通じ、消費者運動へとステップアップする必要があることを指摘させていただいたが、研究会後の懇親会で受講生は異口同音に「目からうろこ」だったようでした。

（川村匡由 記）

（2）第55回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年4月24日（水） 18:00～20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：松村 治（会員、早稲田大学人文総合科学研究センター招聘研究員）
- 4) テーマ：原発事故から8年たった東雲住宅（江東区）—その間の避難者の動向—
- 5) 報告概要

江東区の「東雲住宅」に福島から避難されている方々を、5年間にわたって支援されてきた松村治さんに避難者の入居時から現在に至る経緯についてお話しとともに、その支援の一環として活用された、「ウェルビーイング」調査法についてもご報告いただいた。

2011年4月から、強制避難、自主避難の人たちが東雲住宅に避難され、8月には1600人以上の方々が生活を始めた。その後、東京都の要請で「東雲の会」という自治会が構成され、異なる地域からの避難者が役員となって活動を始めた。ニュースレターの発行、清掃活動、サツマイモづくり、他地域との交流、イベント開催など活発な活動が行われた経緯が紹介された。社会福祉協議会メンバーが、それでも参加してもらえない方々に対して戸別訪問、集会所へのサロン設置などを行ってきた。活動に参加する人の生活の質は高く孤立感も低い。しかし接触できない人々の状況は不明であるという。故郷を失った避難者の心情は察するに余りあるが、人との付き合いの機会を失っていく人もいる一方で、手厚い支援と生活の便利さに徐々に慣れて、ここでの生活になじんでいる人もいる。しかし、徐々に自立して退去していく人も増えていき、住宅支援の打ち切りの話が出始めた2017年、2018年には大幅に退去する人が増えたという。2018年3月時点で280世帯580人、2019年3月には250世帯210人になったという。しかし、避難元へ帰る人はまだ少なく、それぞれ家族や親せきを頼って退去できる人はまだ良いとしても、退去できない人が今後強制的に退去を迫られることに大きな課題が残る。

後半は、「ウェルビーイング」調査法について報告された。この調査は、人びとの生活満足度、心理的健康度、社会的健康度を総合的数値に一元化することで、点数表示できるところに特徴がある。しかし、まだ国際的に標準化されたものがなく、改善の苦勞が説明された。回収率が低いことが問題とされたが、山形県の地域居住地で行った調査結果と東雲住宅で行った調査の結果を

比べてみると、両地域で数値の分布はほぼ正規分布に近いことがわかり、活発に活動参加する人にサンプルが偏っていても、健康度に大きく偏りが出るわけではないという説明がなされた。

参加者からは、「ウェルビーイング調査」について、数値結果の分析には、それぞれの人の生活の背景的データが必要ではないかという意見が出された。これに対しては、個人へのインタビュー調査で補っているとの説明であった。しかし、統計的な分析には、社会学的視点からの質問との組み合わせを試みることもできるなど、さまざまな意見交換がなされた。（長田記）

(3) 第65回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2019年4月25日（木） 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：濱口 晴彦座長のレクチャー「幸福の社会学 ― 世間とのつき合い方 ―」

濱口座長は、「幸福」について「世間」との関連で講義された。幸福とは個々人の内面の問題で多義的な概念であるが、今回は社会的な場面の問題として考えてみたいこと。

先ず、幸福をめぐる10の条件から説き明かされた。そして「世間」の発生、変容、奥行き、本質、世間と社会との相違を述べられた。そして「サードプレイス」は、良質な世間形成にとって大切な人口空間であること。夏目漱石の『草枕』（明治43年）の有名な冒頭の出だし「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」は正に世間のことを言っている。世間から決別出来なかった漱石の文学世界は、この様な世間理解に基づいて書かれたのである。

そして幸せの持続可能性を可能にするためには、人間性、順応性が必要であると結ばれた。

（島村記）

(4) 第11回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2019年4月26日（金） 18:00~21:00

2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9F ラウンジ

3) テーマ：「地域に密着した活動で、後継者を育成する術について」

平成最後の参加者は7名—80代1人、70代後半2人、団塊の世代2人に、60代2人の内訳でした。わか研究会にとって、難しくも最重要課題ともいえるテーマだけに、3時間半を超えるフリートークでも明快な答えには至らなかったものの、有意義な発想や事例報告が充実しており、各人にとっても参考になったと思う。それぞれが、現役時代をひとまず卒業した後、現在は地域に密着した活動に積極的・精力的に複数で関わっている方々であることの強みであろう。

数ある「後継者育成術」の中から、心に残った言葉や体験例のほんの少例だが、報告するとリタイア後に、地域で袴（かみしも）を脱ぎ捨て「ただの人」になることは、特に現役時代要職であった男性の場合、とても難しい。英語で「learn」は学ぶこと、もう一つ、「unlearn」という単語があり、こちらの方は今まで身に着けて来たことを一度外して新たなことを学ぶような意味があり、かなり意識してこれまで身にまわってきたことを外しないと、「unlearn」は難しい。その「learn」&「unlearn」の二つが機能するダイナミズムが生まれると、リタイア後もちょっと生きやすくなる。社会学者のこの教えに共鳴した紅一点参加者は、密かに地域社会でこれを実践し、複数の実践活動に精力的に取り組み、ネットワークの核となって大活躍中だ。新たな環境への適応能力は女性が高いからか？この点は、宿題になった。

後継者育成の困難さでは、全員がそれぞれの体験で得た共通した課題・難題も指摘された。

①組織自体の「高齢化」の問題、②それに関連した組織の「制度疲労」（仕組みと運営方法等）が進んでいる、③「次世代を担うべき（期待する）若者層の取り組み意欲」が若干低下している。このうち③については、その層（次世代）の人たちだけの問題ではなく、(イ) 時代や環境の想定を超えた変化が問題（社会保障制度をはじめとした将来への大きな不安等）だったり、(ロ) 世代間の価値観とか物の考え方等のギャップ（ミスマッチ）もある。これらは双方でよ

り歩み寄ったコミュニケーションを取ることによって、その溝を埋めていく努力をしていかなければならないという暫定的な結論になった。

※三時間半を超える意見交換会となったこの月例会の詳細は、「ライフプロデュース」研究会のブログをご覧ください。(皆川 記)

6. JAASロゴマーク、会員番号入り特製名刺作成のお願い

総会・大会の会場でもご注文をお受けします。

エイジレスフォーラムでもご案内しておりますJAAS特製名刺を作成、ご活用いただきたくご案内いたします。

3か年計画で大テーマを掲げてのイベントの催行や研究会の活動等を通じて、当学会の存在意義は一定の評価をいただいているとはいえ、会員数はほぼ横這いの状況が続いております。法人名に「シニア」を冠しておりますが、より若い世代の方々にも加入していただき、より活発な活動展開に結び付けたいと存じます。

ついては、現在の会員諸氏に日頃の活動で当学会ロゴ入り名刺（会員番号、@jaas.jp のメールアドレスも付与）をご利用いただくことにより、当学会の存在を喧伝していただきたく、作成のご発注をお願いいたします。

《お願い》 会員のみなさまにおかれまして、会員情報（メールアドレス、登録住所等）に変更がありましたら、速やかに変更のご連絡をお願いいたします。

毎月お送りしているJAAS News が不達になるばかりか、これから発送するエイジレスフォーラムが差し戻されますと経費もかさみますので、ご協力のほどをお願いいたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン） 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202 電話&FAX：(03) 5778-4728 eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/
--